

セブンスデー・アドベンチスト教団

アドベンチスト

June



はらしゆく



「父の日を前にして」

東京中央教会第一長老 渡部 正廣

六月の第三日曜日は父の日です。父の日は母の日と違って、あまりなじみがなく、影が薄いような存在ですが、改めて父のことを深く思い、感謝の日としたいと思います。

聖書の中には素晴らしい父親の姿が、描かれています。それは放蕩息子の帰りを待ちわびる父の姿です。

親に背を向けて、家を出て行った放蕩息子、その息子の安否を気遣いながら、帰る日を、日々待ち続ける父親、帰って来る息子の姿を遠くから見つけると、哀れに思っ走り、息子を強く抱きしめる父親、みすばらしい姿で帰って来ても、非難めいた言葉は一つもなく、ただただ、その帰りを喜んでくれる父親 — 素晴らしい父親だと思えます。

子供の頃、始めてこの放蕩息子の話を聞いた時、感動で涙があふれてきたのを覚えています。

この父親こそが、私達が信じ、お従いしている父なる神様であります。

私達は、このような愛の神様の御守りのうちに日々過ごさせていただいており、やがて来り給う主の御再臨を通して、私達は痛みも、苦しみもない天の故郷に帰らせていただけるのです。父なる神様は私達の帰りを待っていて下さるのです。

有難い神様の御心を、心から感謝したいと思います。

私にも、この放蕩息子の話に少しだけ似た体験がありました。今から五十年ほど前の話です。勿論、私は放蕩息子の立場です。

私は、東京下町で家内工業を営む、九人家族

の三番目に生まれました。

成長して兄は公務員として独立し、家業は私が継ぐ形になっていました。

私はこの仕事を一生の仕事にすることに、ためらいを感じていました。出来た



ら教師になりたいと願い、仕事の傍ら四年間、夜間の大学に通いました。教育実習も終え、卒業と同時に教員免許も取得出来ることになっていました。しかし、卒業しても家業から解放されることは不可能だったのです。

兄と相談しました。その結果、荒療治でも、先ず私が家を出て、他の仕事に就くことから始めるしか手がないということとなり、就職先は兄が紹介してくれました。

若さ故の身勝手な考えでしたが、そこまで追い込まれていたのです。私は父と家族に背を向けて家業を離れる決心をして、家を出ました。しかし、出社の初日に、私は足首に怪我をしまうのです。一日の仕事を終えて、家の近くの駅までたどり着きましたが、もう歩けません。家に電話をして迎えを頼みました。父が来てくれました。聖書では、放蕩息子が父親と対面する感動的な場面です。しかし私の場合は、面目なくて穴があったら入りたい気持ちでした。父は「大丈夫か」と優しく言って、病院に連れて行ってくれました。全治三か月、勿論、会社はお断りしました。

今、父の日を前にして、ありし日の父の姿をなつかしく思い出しております。

～ゼナイダさん バプテスマ おめでとう ございます～

「神に引き上げられて」

ゼナイダ・ディリグ

1992年、夫と9歳の娘の世話を義理の父母に託して、フィリピンから再度ここ東京に来たとき私は、新しい生活に慣れるのに大した苦労はあるまいと思っていました。しかし、それはとんだ間違いでした。新しい仕事は、心身ともに逞ましくなくてはやれない、骨の折れるものだったのです。

月日はどんどん過ぎてゆきました。帰国して家族に再会することなどとても叶わず、孤独になりホームシックにかかってしまいました。けれども、どうすることもできません。日本にとどまって働いて家族を養わなければならないからです。手紙と電話のやりとりだけが私たちの連絡の手だてでした。

1998年、友人が教会に誘ってくれました－原宿のSDA国際教会です。私は考えた末、行ってみることにしました。そして何週か通ったのですが、そのうちにやめてしまいました。やめることになったのは、自身の生活スタイルが原因でした。実は、金曜日と土曜日の夜のパーティーに出かけるのが好きだったのです。この時点で私の心は神様から遠く離れてしまっていて、同僚のある男性ととても親密な仲になった揚句、不倫な行為に走ってしまいました。しかしこの関係は長続きせず、結局別れました。妊娠7か月の時です。別れに際しては、出産したら入院費用については援助するという約束でしたが、果たされませんでした。

私はとても落ち込み、ストレスにさらされま

した。帝王切開で子供を出産したときには、その気分は更に悪化しました。巨額の入院費用は、友人たちがお金を貸してくれ、払うことができました。



この生涯最低の時に心に浮かんだのは、原宿のSDA国際教会のことでした。再び通い始めたまさにその日、聖霊が私を包んでいてくださるという実感が湧き起こり、私は声をあげて泣きました。毎週足を運ぶたび、いつも励まされ、様々な問題を抱えているにも拘らず、心は平穏になりました。そして、聖書の学びを始め、バプテスマを受ける決心をしたのです。

私が気づいたこと、それは、受浸後神様が多くの祝福を惜しみなく私に与えてくださっているということです。祝福の一つは、2か月半待ったあとでこの4月に娘が保育園に入れてもらったことです。私は外国籍です、ですから、娘が入園できるなどは少しも考えていませんでした。

神様は、いつも私とともにあるという御約束を忠実に守ってくださいています。神様はいつも私に御手を触れて、御心に従うこと、それが私にとって最前の道であることを思い起こさせてくださいます。このような私に御教えを賜ったことを、神様に感謝申し上げます。

(2002年3月30日 受浸)

カワカミ

「中央教会のみなさまへ」

村崎 由里

ロサンゼルスに来てはや3カ月が経ち、お蔭様で家族3人ともに新しい生活に慣れて参りました。この間、私が急に体調を崩し、主人の会社の方に素晴らしい先生だからと紹介されたのが、たまたまSDAの先生で、具合が悪くて診て頂いたのに、先生ご夫妻と教会のお話をしているだけですっかり元気を取り戻したりも致しました。こちらにあって神様が共にいて下さり、いつも守られていることを心から感謝しております。

以前から杉さんにガーデナーにある日本人教会のことは伺っていたのですが、主人が見つけた家の隣にある教会にSeventh-Day Adventistの看板を見つけたときは、本当に驚きました。

このローリングヒルズ教会に、こちらに着いて間もない安息日の朝9時半に行ってみると、日本語の安息日学校があって、幼児から小学生までのたくさんの子供達が楽しそうに集まってきました。まだお友達もなくて何となく寂しかった遥香も、聞きなれた歌の数々に顔を輝かせ、初めてなのに大きな声で参加していました。

初回こそ私も後ろの方で参加させて頂いたのですが、ベテランの先生ご夫妻が年の違う15人前後の子供達を上手に教えていらっしゃるの

を見て、安心して次週からは遥香を1人で参加させるようになりました。

このローリングヒルズ教会のチャプレンの先生が、大人のためのバイブルクラスを同じ時間帯で開いて下さって、私も久しぶりに安息日の朝、静かに学ぶ時が与えられています。参加者はほとんどが教会の運営する補習校である東西学園に通うお子さんのご両親ですが、皆さん熱心に学ばれていて、またチャプレンの先生は台湾の方なのですが、驚くほど流暢な日本語で、毎週いろいろなテーマからわかりやすくお話しして下さいます。こういった形の伝道活動も素晴らしいことだと思います。

ローリングヒルズの教会の礼拝は、その日礼拝に集まった人の間で、互いに握手し、Happy Sabbath Day!と言葉を交わすことから始まります。初めて礼拝に出た日に「子供のお話」と聞いて、遥香が言葉もわからないのに、いつものように嬉しそうに前に行くのには、主人も私もびっくりしてしまいました。この礼拝で来週は日本語の安息日学校の生徒達による特別賛美歌も捧げられるようで、遥香とともに今から楽しみにしています。

どうぞ皆さまのうえに、これからも神様のお恵みが豊かにありますように。

Eメールで、ステキなスナップが届きました。カラーでお目にかけれないのが残念です。「ロサンゼルスに来ることがあったら是非声をかけてください。中央教会の皆様大歓迎です」とのことです。遥香ちゃんも待っていますよお～！

(編集部)



「ゴーヤーに学ぶ知恵」(沖縄だよ))

千先 稜

沖縄の夏はもうすぐです。沖縄では、梅雨入りは5月頃、梅雨明けは6月頃です。本格的な夏を迎えるために、この時期になると、市場で「ゴーヤー(「にがうり」を沖縄の方言で、こう呼びます)」が出回り始めます。そして、お店や食卓に並べられるようになります。ゴーヤーは、沖縄に限らず、最近では全国的に知られるようになり、注目されている夏野菜です。

注目される理由として、独特の苦みと高い栄養価が挙げられます。ゴーヤーは、豊富なビタミンCが多く含まれていて、疲労回復やカゼ予防に効果があるそうです。また、アデニンやシトルリンなどの成分が整腸作用を持ち、食欲増進に効果があると言われています。まさに、夏バテ予防にうってつけの野菜です。

さて、ゴーヤー料理には、有名なものとして、「ゴーヤーチャンプルー」があります。ゴーヤーチャンプルーとは、豆腐や野菜などを混ぜた炒

め物です。(私も最初は食べられませんでしたが、今では大好物です。)

このような食材は、厳しい夏の暑さを乗り切るための生活の知恵が生んだものだと思います。これと同じように、私たちの信仰生活にも、厳しくつらい状況を乗り越えるための方法があると思います。

ときどき私たちは試練に襲われますが、これ乗り越える方法として御言葉があります。御言葉は私たちの心の栄養素です。最初は難しく理解できない聖書を、よくそしゃくし、苦さの中にある真理を学ぶことが大切になるのです。そして、いろいろな方法や視点から比較して研究することが私たちの信仰を堅固なものとしてくれるのです。まさにゴーヤーから学ぶことのできる知恵ではないでしょうか。

ゴーヤーは、さまざまな食材と混ぜ合わされることにより「栄養的に相互補完的な役割」を果たし、「バランスの良い」食材に変わります。

沖縄では、食事のことを「ヌチグスイ(命の薬)」というそうです。同じように、日々の御言葉を食すことにより、命を与えられた神様に感謝と喜びを表したいと思います。

(SDA沖縄三育中学校教諭)

ヘルシー野菜「ゴーヤー」。炒めても壊れにくいビタミンCを豊富に含み、夏バテ予防に好適だそうです。

キッズ・コーナー

「恐れ入りました！」

福音社旅一座は、101周年を迎えたサインズ奨励に、今年もエンヤコラ。ついこの間は、あの大八車を従えて箱根の山を越え、いざ広島へ。三育小学校全校生の前で、「子どもにどこまで通じるか」、大きな不安を胸に抱きながらも、国谷秀さんと松倉寅吉さんの名演技は続きます。

「国谷さん、あそこに一軒の家がありますよ。あそこでサインズを紹介してみましよう！」はい、お祈りして行きましようー二人手を合わせうつむく。2秒後...「アーメン」ーその途端です。「短けえ！」 いままで静かに見ていた児童から声が...子どもはしっかり見ていました。そうです、「2秒のお祈りではいけない」のです。イヤハヤ、するどい指摘にドッキリし、それ以後、劇に大きな祈りの声加わったことは言うまでもありません。皆様のお祈りは、い・か・が・ですか!? (雅)

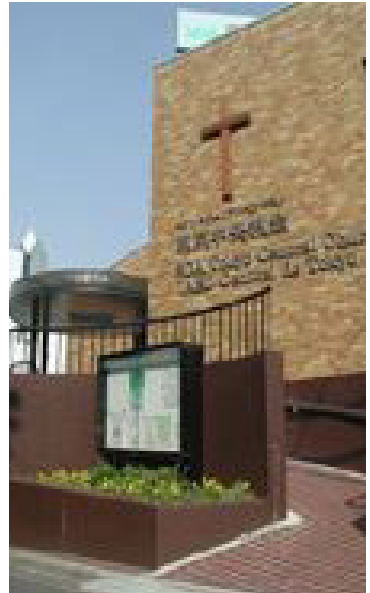
原宿彩

夢、実現 - TIC聖歌隊との合同礼拝
(5/18)

5月第三安息日のビジターズ・デーでは、TIC・日本人両聖歌隊総勢五十余名の讃美を中心にした合同音楽礼拝が行われました。ウォーターズ夫妻の司会のもと、出席者が加わっての全員合唱も4曲、力強い讃美の音が堂内に響き渡りました。「TICコワイヤーとの合同演奏は長い間の夢でした。またやりたい」と指揮者・及川律さん。

見上げよ、十字架を

礼拝堂玄関スロープ右手上方の壁面にブラジル産のイッペという木の十字架が懸けられました(写真) 5月11日付の週報でご案内のとおり、この木材は腐ることも虫に食われることもない最も高貴な木といわれ、その花は国花です。高級家具・建築に使われます。通りすがりの幾人かが立ち止まって見上げています。聖霊様がその人たちを教会に導かれますように。(Yo)



パイプオルガンって、 どういう楽器？

6月第三安息日(15日)午後、「讃美と証の会」は、パイプオルガンが中心テーマ。礼拝音楽に果たしてきたその大きな役割をはじめ、オルガンにまつわる講話が楽しめます。お話は及川律さん、演奏は森武靖子さんです。

SSに「おさなかりしころ When young」アワー」登場

安息日学校の新番組をご紹介します。誕生月の方々に、幼い頃の写真とともに登場願い、思い出話をしていただくというもの。第1回の4月20日には、新田聡・板東クララ・平沼杏子・佐々木誠さんがそれぞれ愛らしいお顔のスライドをバックに、やや照れぎみながら、ほほえましい回顧談を披露して下さいました。次回以降も大いに楽しみです。主催者側では、ご応募大歓迎だそうです。持ち時間はお一人5分。魅力的なスナップと共に、名乗りを、どうぞ！

俳句

大利根のゆるき蛇行だこうや揚雲雀あげひばり
 原宿や若者ことば風光る
 花疲れ蔵の画廊の茶のかわり
 喜多方や夢二が宿に春の闇
 普請場の茶髪見おろす若緑
 (保夫) (武国)

十 第2回家庭セミナーのご案内 十

好評の第1回(「『夫婦も他人であればこそ』からの出発」講師：及川恵さん)につづいて、第2回セミナーも夫婦の問題についてです。弁護士として第一線で長年ご活躍中の二瓶先生が、様々な事例をもとにお話し下さいます。

- *テーマ：「夫婦の危機」
- *お 話：弁護士・二瓶和敏先生
- *日 時：6月29日(6月第五安息日)午後2時30分
- *場 所：1F 集会室

バイブル豆事典

「十戒と法」

十戒は、SDAの主流的な考え方によると、紀元前1440年前後に与えられたものであるといわれている。「目には目を、歯には歯を」で有名なハンムラビ法典などに比べると、かなり新しいものであるといえよう。

さて、「法」というのは社会規範の一種であり、ジョン・オースチンは法は主権者の命令であると主張したが、現在でも法と道徳とはどのような点で異なるかについては、さまざまな見解が多く研究者によって唱えられている。十戒は道德律だといわれることがあることから、法あるいは広い意味での法律であるという印象がある。また、「安息日を覚えてこれを聖とせよ」とか「殺すな」という命令から成っているため、法律に似ているようにも思われる。しかし、出エジプト記24章を読むと、十戒は一方的に命じられたものというよりは、神さまがイスラエルとの契約のために作った契約書の条項にほかならないことがわかる。つまり、十戒などが記録された書き物は「契約の書」(24章7節)と呼ばれているのである。申命記5章にも十戒が出てくるが、ここでも「主は われわれと契約を結ばれた」といわれている。

(東京中央教会員 弥永真生)

6月のスケジュール

- 6 / 1 (土) [説]ジョシア・シン牧師&子供のお話
役員会
長老会
- / 8 (土) [説]花田憲彦副牧師
子供野外礼拝(代々木公園)
週報&アドベンチストはらじゅく発送
小羊クラブ
- /15 (土) 板東洋三郎牧師&子供のお話
讚美と証の会
理事会 15:00~ 祈りの部屋にて
- /22 (土) [説]板東洋三郎牧師&子供のお話
洗足・聖餐式
弟子訓練セミナー
- /23 (日) PFC防災訓練
- /29 (土) [説]ジェイロン・リ - 牧師&子供のお話
家庭会セミナー「夫婦の危機」
お話：二瓶和敏弁護士

教会のホームページを開設しています。

<http://www.sda.gr.jp>

エデン ED園だより

去年一年間、朝日新聞の朝刊の一面に「花おりおり」という写真と文が掲載されていたのをご存じの方もあるかと思えます。私も愛読者の一人として先づ切り抜き、シートに貼るのを日課にしてきました。花のカラー写真、そして文。品種、原産地、又いつ頃渡来したのか等細かく説明もあり、随分教えられました。自然界の神妙さ、そして創造主のみ業の素晴らしさを崇めます。毎朝異なった花々との対面。一寸した植物通になったような気持。私にとりまして近年楽しい記事との出合でした。

(S.H.)

発行：東京中央教会コミュニケーション部 * 発行人：板東洋三郎 * 編集人：前中靖司
[住所] 〒150-0001 渋谷区神宮前1-11-1 03-3402-1517
* スタッフ：久木田明夫・佐藤敏子・寺内雅子・芳賀洋・平山茂子・森武靖子・山口保夫